

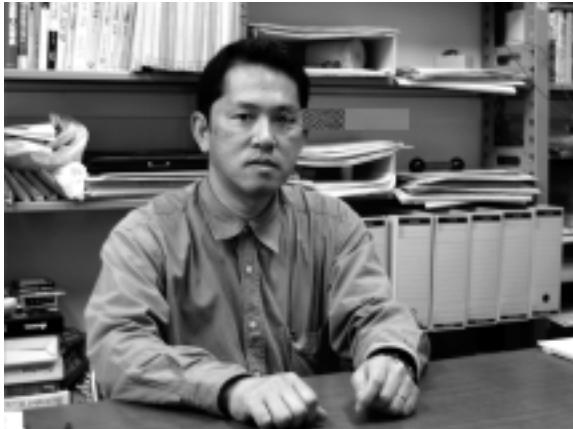
総合科学部 研究室紹介



研究室 A512

担当授業

- 人文地理学A (1)
地域地理学B (2)
文化と風土 (1・2)
コン 3)
日本環境地誌 (4)
日本地誌研究演習 (5)
※ () 内はセメスター
オフィスアワー
木曜日 14:00~17:00



これが聞きたい！一問一答

◎趣味

自然観察・まちづくりの活動

◎自慢の品

旅行先のパンフレットや入場券
「ほぼ価値もないし自
ないけれ 気 い
うね (笑) 」

◎好きな食べ物 何でもOK

「特にこれ 食、
てしまうっていうのはないね（笑）。」

◎好きなテレビ番組

バラエティ・自然関係

◎好きな本 時代小説

◎好きなスポーツ 散歩

「よくその辺を散歩しています。あと、今はしていないけど、昔は陸上で競歩をやっていました。」

◎好きな言葉

人間万事塞翁が馬

◎広大の中で好きな

思案橋から寮までの、川沿いの道

「子供を連れてよく歩きます。季節が変わると様子も変わってくるし、そういうの」

◎総合科学部で特徴的だと思う点

色々な分野の人がいるところ。特に、理系と文系の人が同じくらいついているところ

あさの
敏久

研究室

研究内容

育の活動といった市民運動 市民活動
象に、それらが地域とどういう関わりをして
いるのかを研究しています。専門は地理
学なので、地理的な観点でやつてい
うことになるかなと思います。

「地理的な観点とはどういうものですか?」

す。問題提起を研究者や行政がする場合もあるけれど、僕自身は住民や市民が何を言いい出していくのかということから問題のでき方を研究しています。地
じて問題の成り立
てく
点に注目することが、「地域的・地理的な
観点」から見ていくことになるのか
なと思います。

それは地域との関わり方、といった意味です。例えば海や湖の埋め立てをしようと、いう話が持ち上がった時、生き物を守れといつた声が強い地域があれば、公共事業による雇用のす。逆にこれらのことことが問題にならない地域もあり、その違いは地域の社会的あるいは的なる。しているわけです。公共事業で言えば、地方では雇用問題は深刻ですが大都市などでは公共事業の削減に論点が行くべし自然を壊していくのは同じでも、環境問

研究室紹介

研究への道のり

大学に入った時か

に

持つっていました。当初は理系だったのでが、環境のことはもっと人間の側から見た方がいいのではないかと思つていました。そこで、卒論では人文地理学の分野で霞ヶ浦の保全・保護活動を研究し、修論ではより社会運動を研究対象にしました。大学院の頃に自然保護運動などがどんなもののか興味を持ち実際に活に、くうちに、色々な知り合いができる情報が入ってくるようになつたんです。それからドクターまで入つたんですが、途中で大学を辞めて就職しました。

大学にいた時に一番気になつていたのは、活動の中で労^ては^ているとしても、やつている研究がそこの問題の解決につながらないということです。それに住民ではないのでその場所への思い入れの、の当事者になりたい気持ちが出てきたんです。コンサルテ^きン

いましたが、その後広大から話があつたので広大にやつて来ました。
「大学と企業という立場での違いは?」
会社でも大学に来てからもまちづくりに関わつてい
した。その意味で

計画が生きたか、生きないかには責任を持ちません。その代わりに色々な種類の話が

全国から来て面白かつたし、先進的な話もいっぱいありました。

に、大学周辺の仕事はたくさんあつて

全国的な話とか国の仕事はめつたにないわけです。

ころもあるけれど一年間で終わるようなことはなく、最後まで面倒を見られるようになりました。学生の頃になれなかつた住民の立場で関^はています。

研究の中での「総合科学」

そもそも僕は総合的なもの以外しがありません。地理という学問がそもそも

は社会学とか人文地理的な社会運動だけれど、調べている場面には理系的な言葉が出てきます。総合的に取り組むことは現実の社会問題に関わろうと思つたら絶対に

だと思います。

Hコについて

そんなに熱心に環境に配慮した生活はしていなかもしれないけれど、か^こだわりで車を運転しないし免許も持つていません。だから歩きとか自転車とか公共交通機関しか利用しない生活をしています。

周りには偏屈だとしか言われないんだけど

(笑)。ある程度の不便さを受け入れる、

りエコロジーなのかなと思いますね。本当に必要なものかどうか考えて買えばいいのかなど。

「現代の便利なライフスタイルを変える」とができると思いますか?」

不自由だと思つたらできませたときのプラスをもつと自分なりに評価した方が良いです。そういうものが見つからないと我慢したって感じになつてしまふから

学生に一言

僕自身が大学にいた時に地域の活動をしている市民団体などのところに行つて、そこで色々なことを教わりました。大学の授業や本で学ぶこと^上こわつたこと、そこで知り合つた人脈でおもしろい経産になつています。だから学生に言いたいのは、大学の中だけにいるのではなく、外

んどん出て行つた方が^どど^とく思います。

【担当】20生 吉田 聰

研究室 C701
担当授業
教養ゼミ（1）
情報活用基礎（1）
コンピュータ・プログラミング
(1・2)
プログラム技法（3）
3)
プログラマ 4)
※（ ）内はセメスター
オフィスアワー
金曜日 16:00~17:00



これが聞きたい

◎趣味

マラソン・観葉植物・鉄道
「マラソンを始めたきっかけはダイエットでしたが、今は楽しんで走っています。また、僕はRのおよそ6割は乗りました。」

◎自慢の品

ネックレス・参加したマラソンのゼッケン
「ただのネックレスじゃなくて、双子のマナカナちゃんから直接もらったものなんですよ。」

◎好き

「東京・神奈川エリアの有名店は大体行きました。」

◎好きなテレビ番組 水

◎好きな有名人 大泉洋・上戸彩

◎好きな音楽 スガシカオの曲

◎好きな本 村上春樹・宮本輝の本

「東京に住んでいたころ、村上春樹とはご近所でした。会ったことはあります。」

◎好きな言葉

Research is what happens to you while you're busy solving other problems.

（ジョン・レノンの「Life is …busy making other plans.」か）

◎広大の中で好きな

ぶどう池のほとり

◎総合科学部で特徴的だと思う点

様々な分野の先生が1つの組織にいるところ

もりもと
森本 康彦
数理情報科
やすひこ

研究室

僕は、「研究のための研究」ではなく「社会のための研究」ができる学者でありたいと思っています。

研究内容

専門はデータマイニングです。すく言えば、データに埋もれた知識を学問です。広大に来る前は、IBMに勤めていました。IBMの当時のビジネスの柱は大型コンピュータでしたが、これらの大規模なコンピュータに蓄積されている大量の情報から、特徴的なパターンを

るために発展してきた技術のことを指します。この分野の研究成果をもとに、その後、グーグル等のネット検索ビジネスが誕生しています。現在では、ネット上の膨大な情報からいかに有用な知識を発見していくかが大きな課題になっています。

研究への道のり

僕

は三年次から（総合科学部で言うところの）プログラムに分かれます。その過程で、三、四年次くらいからコンピュータに興味を持つようになりました。学生時代はESSというサークルで、英語でしていました。その中にはアメリカで仕事をしたいという人が多くいました。一方、僕は一度も外国に行つたことがないだけでなく、飛行機にすら乗ったことがありません

研究室紹介

したり旅行に行ったりして、そういう

人たちが帰つてきは土産話をしたりす

ませんね。

んです。その影響から、やはり就職先はアメリカで働く企業にしたいと思うようになります。なので、外国に行けそうな企

あつてなおかつアメリカの企業じやないか、と。外資系の企業ですから、新入社員に帰国子女たちも多く、大変でした。そもそも飛行機にすら乗つたことがないんですから（笑）。ともかく、IBMでずっとコンピュータに関わっ

以前、大型コンピュータが黙つていても売れていた時代がありました。ところが、需要がみたされるにつれて簡単には売れなくなつてきたため、新たな付加価値が必要になつてき、そこで量に一を記録できて、必要に応じて参照できるだけなく、情報

とが起つてゐるよ」と教えてくれるようなコンピュータの研究

後は、たとえば「ハミングウェイの何とかの作品について調べなさい」という課題があつたとして、それに直接答えをくれるような情報の検索の仕方が登場するかもしだす。これを制すると、グーグルを超えるよ

研究の中での「総合科学」

社会のためになる研究というのは、すべて「総合科」うよ

学者はちよつと反省しなくちやいけないと思います。というのも、「研究のための研究」がわりと多い気がするんです。僕自身も、論

な研究をやつてしまふことが多いんですね。いわゆ

り合うような研究です。しかし、「こうしたい」「こうありたい」という思いを持つことで、枠を超えていけるとい

とえば僕がやつてきた仕事の中に、病院の中での情報管理や、逃げた犯人を警察がい

かに効率的に捕まえるか、という研究などがあります。社会に喜ばれるシステムを作

学生に一言

一年生の皆さんはこの先プログラムに分かれますが、それぞれのプログラムで学んで得る幅広い知識だけではなく、どこか一つ「ここに強い」い

いと思います。

また、積極的に他のプログラムの授業も受けてみましょ。総合科学部は「十α」をたくさん持てる学部だから、将来出世できると思いますよ。そして、環境が許せば大学院にも進学して、その強みを育てていってほしいですね。その時に、

部で学んだことも生かしていくと思いますから。

【担当】20生 山谷 義貴

HITについて

印刷用紙をなるべく取つておいて両面を使

だから僕は、「研究のための研究」ではなく「社会のための研究」ができる学者で

ますよね。そう考えると、世の中に存在する問題というのは、社会のためになるようにと考

りますよ。どう考へると、社会のためになるようになります。

研究室 A125
担当授業
心理学B (1)
行 1)
脳と行動の科学 (2)
行動科学統計演習 (3)
情報処理心理学 (4)
行動科学実習 (4)
※ () 内はセメスター
オフィスアワー
火曜日 13:00~15:00



これが聞きたい！一問一答

◎趣味

子供と遊ぶこと、研究

◎自慢の品

自分が書いた論文

◎好きな食べ物

◎好きな有名人

ヴィクトール・フランクル

「『夜と霧』の著者です。」

◎好きな音楽

ジャズ

ポール・オースターの小説

◎好きな言葉

自分の

(笑)。」

◎総合科学部で特徴的だと思う点

壁を作らないという理念をみんなが共有しているところ

行動科学プログラム 入戸野 宏 研究室

研究内容

色々なことをやっているのですが、専門は心理学です。心理学は心理学です。心理学関係を調べているというイメージが強いのですが、僕は人とモノの関係について調べています。人間がコンピュータやテレビ、映画などのことですが、そういうものに対して人がどのように関わり、どのように影響を受けているかを調べています。特に、脳の働きを脳波という形で記録して、モノを使っていると脳はどういう反応をしているかを研究していました。面白いものを見つけて夢中になっているときの脳の反応を調べることで、使ってつながるといいなと思っています。

また、広告などのデザインで、人が見て好感を持つデジタルを、脳の反応から区別できるような仕組みが作れたら面白いと思いますね。たまたま脳が何をしているかに关心があり、いろいろな研究を行っています。

思つて次に行つてしまふ場合では、脳の反応の仕方が違うんです。脳は見るべき価値があるかどうかを〇・二秒くらいで判断して、ずっと見つづけるか、それともやめてしまうかを決めているらしいということが、うちの研究室で行った実験から明らかに

研究室紹介

研究への道のり

本当は、大学に入った頃は哲学者になるての本を色々読んでいくうちに、これはかなわないと思つたんですね（笑）。歴史上、多くの哲学者が存在し、日本語に翻訳された本もたくさんで、これを全部

るだけでも精一杯だから、自分で何か新しいアイデアを出すまではいかないと思ったんです。

そこで、自分でデータを集めることで、少しでもいいから人間に関す

しい

を始めました。さらに、哲学からの反動ということで、特に即物的な脳に関する研究を選びました。これまでに何度もやめようと思いましたが、それなりに面白いので続けています。
けそ

気持ちはないです。「人間とは何か」という哲学的な問いかがます。

研究の中での「総合科学」

いわゆる「正統派」の心理学はあまりつていません。専門家

と思えるか、そして人にその面白さを伝えられるかが決め手なんですよ。役に立つところなので、実社会の損得勘定ではできないような研究をあえておこない、どれだけ人を的に喜ばせられるかが使命だと信じています。ただし、面白いことと興味本意とは違う。お笑いと同じで、いいかげんにではなく、
こそ面白さが際立つと思いま

Hコについて

さつき話したように、僕は人とモノとの関係を扱っているんですが、世の中にはいろいろな無駄なモノがありますよね。例えば、電化製品に、なくてもいい機能がついていると、その分、電気を余分に消費してしまう。企業の都合で付けられた本当は要らない

リティーを出していつて、自分はこう思うとはつきり言えるようになつてほしいです。そのためには口だけでなく、実力も高めていかないと格好悪いので、それが学びの原動力になります。

今の学生には自分のやりたい

マを専門技術を使って攻めていこうというのが僕のスタンスです。「面白くてナンボ」だと思っているので、まずは自分で面白い

優しいことが調和する生活の仕方を見つけることが出来たらいいなと思っています。それが僕なりのエコに対する取り組みですね。

学生の一言

自分が面白いと思うテーマを見つけ

と、とはと・とと
ね。それが一番です。人と同じことをやつても、つまらないと思うんですよ。同じことをやつていたう

人に必ずどこかで出会うはずですし。もちろん、協調しないとい

ろん、協調しないとい

しよう。だけ

つ
りティーを出していつて、自分はこう思うとはつきり言えるようになつてほしいです。そのためには口だけでなく、実力も高めていかないと格好悪いので、それが学びの原動力になります。

今の学生には自分のやりたい

らないという人が結構いますね。だけど、何でもいいから自分が興味を持ったことを突きつめていけば、その分だけそのテーマに詳しくなっていく。いい意味でのオタクになつて、そこから自分の専門性やオリジナリティを作つていったら、自信もつくのではないかなと思ひます。

【担当】20生 世良 真一郎

研 A817

担当授

- ベーシック・ドイツ語Ⅰ（1）
- 宗教学A（1）
- ベーシック・ドイツ語Ⅱ（2）
- 宗教学B（2）
- 聖書の人間理解（1・2）
- キリスト教思想（3）
- キリスト教思想演習（4）
- ※（ ）内はセメスター
- オフィスアワー
- 木曜日 12:50～14:20



これが聞きたい！一問一答

◎趣味 野球観戦

「夫婦そろって阪神ファンです。夫婦で見に行くのがとても楽しいんですよ。」

◎好きな食べ物

ラーメン、スペゲッティ。和食も。
「広島は食に恵まれていますね。」

◎好きなスポーツ アメフト

「高校時代、ラインバッカーをやってい

◎好きな有名人

最近は阪神の金本知憲選手
「自分に厳しく人格者。そこがすばらしい！」

◎好きな音楽

青春時代…ザザンオールスターズ

仕事中…ジャズをもっぱら聴く

マイブーム…平井堅

◎好きな言葉 実事求是

「事実の実証に基づいて物事の真理を追

la place（中央図書館前のカフェ）

◎総合科

大所帯で、教員の数がすごく多いところ。

「1学年で見ると先生1人につき学生1

人くらい。これっく。

部の先生を知るのは難しいけれど、その

気になれば自分の興味のある分野の先生

と関わ

このチャンスを大事に生かした方がいい

ですよ。」

辻

人間文化プログラム

まなぶ

研究室

過去から未来へとずっと続く時間、自分には見えない空間や、人とのつながり、その中に自分がいる。

研究内容

キリスト教、特に新約聖書についての研究を行っています。新約聖書に収録されている文書がどういう状態で書かれたかを考察すると同時に、一世紀のキリスト教が生まれてきた背景の分

内容を分析することと同時に、その背景の歴史状況を考えていくわけです。また、新約聖書のテクストが現代の我々にどのような意味を生み出すかという「解釈学」の問題にも関心を持っています。

研究への道のり

父親が牧師で、教会の中で育ちました。ですから、「キリスト教とは何か」とか「聖書とは何か?」ということを改めて考えることも全くありませんでした。最初は牧師になるつもりでした。そのためには、キリスト教や聖書について、自分の言葉で理解し説明できるようになることが必要です。牧師の資格を取るため、大学は神学部に進みました。

ある日のこと、大学の図書館の書庫に入つて神学の本をずっと眺めていると、なんともいえない幸福感を覚え、研究が自分に合っているのではないかと思い、それで大学院の前期課程、さらに二期課程

研究室紹介

へと進学することに決めました。後期課程の三年目の夏にスイス政府の奨学生に当たったので、ベルン大学神学部に四年間学し、博士論文を書きました。

日本に帰ってきて、一年間非常勤講師をした後、母校の関西学院大学で教えるになりました。ただ、中学から三十年間関西学院にいたので、広大から誘いを受けたとき、外の世界を知るのもいいなと思い、来ることにしました。

研究とはおもしろいことだと教えてくれた本との出会いも、今の自分にとっては大きかったです。中でも『イエスという男』（田川建三著、作品社「第二版」）という本は、イの魅力を

研究

特に意識してきたわけではないけれど、研うことなので、やっていると自ずと他の領域を意識せざるを得ないものです。宗教というものを、人間の一ののの局面に押し込めてしまったのは近代の誤りだと思います。古代の人には、生活全般に宗教が関わっているという意識があつたはずです。もちろんそれが良くない影響を及ぼす場合もあるのだけど、宗教というものが、エコ

から未来へとずっと続く
人 の な の
の中に自分がいる。そういう世界観を持つ。それが宗教の大好きなところであり、そういう意味では、宗教は「総合科学的」なので

は元
いも
合
み
過
えていない
時間と空間の見えない繋がりの中で生きていくということの意識が弱くなり、目に見える部分だけで物事を捉えてしまうようになると、色々なところに歪みが出てきます。環境問題もまさにそう。目の前の事柄しか見ない姿勢が今の問題を生んだのです。見えない繋がりを意識し、その自覚の中で科学などの営みをしていく事が大事ではないでしょうか。この世界には、人知を超えた秩序があり、人間もその秩序の一部として生きる事が求められている。そのような生き方が人間には本来できるはずだ、

自分がこだわりを持ってやれることを見つけて欲しい。あと、広大は残念ながら街から離れているから、大学の外の、持ちながら生活していく事を特に大切にして欲しいです。大学は街と切り離されて存在するものではないと思います。学生は、街の人たちと共にいることで育つのですから。

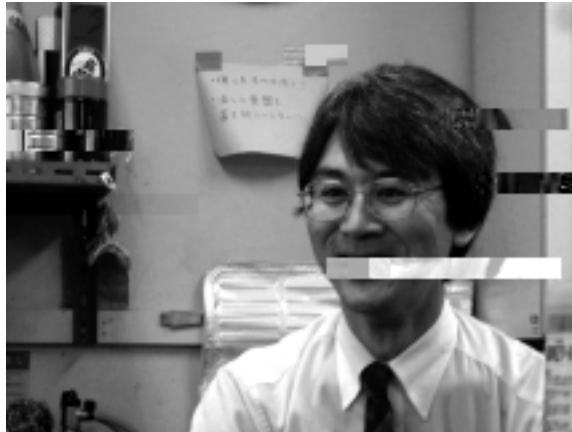
学生に一言

【担当】20生 野村 亮

研究室 C402

担当授業

- 世界の自然と環境問題（1）
- 生態学（2）
- 環境とエコロジー（3）
- 生物学実験法・同実験（2・3）
- ※（ ）内はセメスター
オフィスアワー
月・火曜日 11:00～12:00



これが聞きたい！一問一答

◎趣味

登山・園芸・釣り・フルート演奏・音楽鑑賞
「休日はできる限り家族で過ごしたいと思っていますが、多趣味のためかなり忙しいです。」

◎特技

「実は広大古武道部の部長です。フルートは自己流。」

◎自慢の品 国内外の博物グッズ

◎好きな食べ物 魚介料理・お酒
「おいしいものは何 も」

◎好きなテレビ番組

ダーウィンが来た
「家族みんなで見てています。」

◎好きな有名人

ナイジェ・エ
ロデューサー)

◎好きな音楽 クラシック全般

◎好きな本 ファーブル昆虫記

◎好きなスポーツ

やるなら古武道、見るなら野球
「もちろんカープファン！」

◎好きな言葉

あなたが見たいと思う世界の変化に、あなた自身がなりなさい。(ガンジー)

総合博物館・発見の小径

◎総合科学部で特徴的だと思う点

既存の学問の壁にとらわれなくてよいところ

なかつぼ 中坪 孝之 たかゆき 研究室

自然環境科学プログラム

研究内容

専門は とする各種の荒原生態系と、河口を含む河川流域を対象に、生態系を構成するさまざま生物にスポットをあて、その生物の生理生態 生態

河後退域の生態系に対する環境変動の影響について特に力を入れています。

研究への道のり

物心がついたときから「生き物」好きで、いいいい

学年くらいのときに『ファーブル昆虫記』を読んでからは、昆虫の中するようになりました。卒業文集では、将来の夢として「昆虫学者」を挙げています。中学・高校時代は、昆虫採集を続けながら、新たに海辺や高山など、厳しい環境に生きる生物に興味を持つようになりました。そして、大学から大学院にかけて、具体的に極地や高山の植物の研究を始め、現在の研究にたどり着きました。その意味では、自分の思い通りの方向に進んできたといえるでしょう。

研究の中での「総合科学」

私は うちに日本でも「環境」の時代が来るであ

研究室紹介

るうことを予感して
の頃から、大学教員として、若い学生に
「環境」の大切さを
るようになりました。そこで、自分で講義
をもつようになつてからは、自分の専門に
とらわれず、「環境学」の授業をやろうと
思つて、「自然環境基礎論」（現在の「環境
とエコロジー」という授業を始めました。
実際にやつてみると、情報量が多く、まと
めるのも大変で、上手く伝えられないこと
もしばしばです。それでも、講義に影響を
受けたという学生もいて、そんな話を聞い
たときはとても嬉しくなります。

この「環境学」というのは、「丁字型の
人材」、つまり長い縦棒（専門性の深さ）
と横棒（他分野とのネットワーク）を併せ
持つた研究者が求められます。このことを
ある人が、「環境学は、総合格闘技である」
（※）と表現しているのを見て、とて
得させ
では駄目で、ひとつの必殺技が欠かせない
のです。このように、「環境学」はかなり
厳密な意味において「総合科学」だと思いま
す。私は

とが、自治体で環境に関する委員をする際に役に立つて、
言行不一致は嫌いなので、私生活でも研

研究しており、研究室の学生からなる団体「かつばのおうち」は、観察会や「黒瀬川ガイドブック」の賞を受けています。

例えば、毎年、黒瀬川で「釣り大会」を企画しています。現在では、一〇〇人が参加するまで大きな行事になりました。そこである保護者が「この川にも魚がいたんですね」と驚いていましたが、黒瀬川には、とつても大きいナマズだっているんですよ！ まずは、多くの人に「環境」について知つてもらうこと。身近な自然を知ることで、好きになり、気にするようになります。「環境」に対しては、もちろん、國家規模・世界規模での取り組みも必要ですが、このよーの

究室でも実践に励んで、マイ箸やマイバックはもちろんのこと、生ごみをリサイクルして野菜を作ったりだとか、「フェアトレード（公正貿易）」（※※）の商品を意識的に買うようにしたり、積極的に出動などには、積極的に出でています。自分で新たなエコを考えること自体が結構楽しいんですよ（笑）。また最近は、学者として学んできたことを社会に還元していくことにも意識的に取り組んでいます。その意味からも、地域への啓蒙活動などには、積極的に出でています。

学生に一言

最近の学生は、「今の自分に合う」もの
たい」という目標がはつきりしないように
見受け
にないことができる環境があるのでから、
それを自ら積極的に求めてほしいです。情
報が氾濫している時代だからこそ、自分自
身を見つめることが大切です。一〇年後、
二〇年後に自分がどのようになつ
のか。自分の理想像ができれば、やるべき
ことは必ずと見えてきます。

※ 武内和
店 2002

(※※) グローバル化が進み、世界規模での低価格競争が行われるようになつた今日、その中で翻弄される、立場の弱い生産者の生活、立目指す運動。自由貿易（フリートレード）のように価格を市場まかせにするのではなく、生産者の方に労働に見合つたとは、乱開発を防ぐ役割も果たし、「環境」を保護する取り組みでもある。

(詳しへは、中坪研究室のホームページサイト
<http://home.hiroshima-u.ac.jp/itsubo>を△覗トヤ)

【担当】19生 寺澤潤哉